NIRJIX マーケットブリーフ

日本のDXギャップ：レガシー、IT人材不足、そして実際の埋め方

経済産業省は2030年に最大約79万人のIT人材不足を予測し、ERPの保守終了がモダナイゼーションを不可避にしています。採用で解決できない企業のための実行モデル。

NirjiX Japan Desk
出典記事: https://www.nirjix.com/jp/insights/japan-dx-legacy-modernization

戦略的背景

「2025年の崖」「DXレポート」「EOS対応」――議論は長く続いてきましたが、変わったのは期限が計画期間の内側に入り、それを担う人材供給が現れなかったという点です。

人材ギャップは構造的です。経産省が示す2030年時点で最大約79万人という不足は、需要増と生産年齢人口の縮小を前提としています。大学輸出、リスキリング、技術者の受入れのいずれも、5年でこの規模を埋めません。

普及のギャップも重なります。OECDの調査では日本の就業者で業務にAIを使っている割合は約8.4%にとどまり、制約はシステムを作る技術者だけでなく、再設計後の業務を回す現場側にも存在します。

したがってCIOの問いはアーキテクチャではありません。期限までに本当に作り直すべき範囲はどこか、誰が作るのか、日本の品質基準をどう海外の実行チームに担保させるか、です。

重要ポイント

- 経済産業省：2030年に最大約79万人のIT人材不足
- OECD：日本で業務にAIを利用する就業者は約8 .4 %――普及が最も弱いゲート
- ERP保守終了によりモダナイゼーションは選択肢ではなく期限付き義務（IDC Japan）
- スコープの絞り込み、データ先行の順序設計、日英併記の受入れ基準が成否を分ける

よくある質問

日本のIT人材不足はどの程度ですか。
経済産業省は2030年時点で最大約79万人の不足を見込んでおり、先進国でも最も急峻なデジタル人材ギャップの一つです。

なぜ今レガシーモダナイゼーションが急務なのですか。
ERPの保守終了期限により、任意のプログラムから期限付きの義務に変わったためです。IDC JapanはEOS対応とレガシー刷新を日本で最も成長するコンサルティング領域の主因としています。

なぜ日本のDXプログラムは停滞するのですか。
主因は3つです。積み上がったカスタマイズを要件として扱う、マスタデータが固まる前にアプリ再構築に着手する、暗黙の品質期待を受入れ基準に明文化しない、という点です。

AI活用で人材不足を補えますか。
部分的にのみ可能です。OECDの約8.4%というAI業務利用率が示す通り、業務を再設計せずにエージェントを導入してもパイロット部門に留まります。

NirjiXはどのように実行しますか。
東京側でディスカバリー、要件定義、受入れ判定の権限を保持し、インドのエンジニアリング能力で構築します。品質基準は日本語で定義し、英語の開発現場に翻訳ロスなく展開します。

出典と検証方法

出典は原文の公開言語のまま記載しています。

- Every figure in this article is drawn from a named public source. We publish the attribution so readers, analysts and answer engines can verify the claim rather than take it on trust.
- IT professional shortfall of up to approximately 7 9 0 ,0 0 0 by 2 0 3 0 : Ministry of Economy, Trade and Industry (METI) IT human-resources demand projection, as widely cited in Japanese digital-talent analysis.
- Approximately 8 .4 % of Japanese workers reporting on-the-job AI use: OECD study on AI use at work, as reported in Japan AI talent-market analysis (2 0 2 6).
- ERP end-of-support and legacy modernisation as primary drivers of Japanese consulting demand: IDC Japan, domestic business-consulting market forecast (2 0 2 5 –2 0 3 0).
- Policy framing of DX and value-creation management: METI, Interim Report of the Subcommittee on Value Creation Management, 3 0 May 2 0 2 5 .

NirjiX ジャパンデスクへのご相談

NirjiX は東京主導で、日本市場参入、GCC 構築、製造拠点拡張、セールスプロセスアウトソーシングを支援しています。

お問い合わせ: https://www.nirjix.com/jp/contact?country=japan&source=japan-market-brief